

令和6年度 あま市平和体験学習報告



○行程

□ 8月7日(水)

- ・ 出発セレモニー(あま市役所)
- ・ 広島平和都市記念碑に献花
- ・ 平和のメッセージ交換セレモニー
- ・ 被爆体験講話
- ・ 映像学習「The A-bomb ヒロシマで何が起こったか」

□ 8月8日(木)

- ・ 袋町小学校平和資料館の見学
- ・ 広島平和記念公園で千羽鶴の献納
- ・ 広島平和記念資料館の見学
- ・ おりづるタワーの見学



○出発セレモニー(あま市役所)



○広島平和都市記念碑に献花



○平和のメッセージ交換セレモニー

広島平和記念資料館の石田館長をお迎えして、広島市長とあま市長の平和のメッセージ交換セレモニーを行いました。



○被爆体験講話・映像学習 「The A-bomb ヒロシマで何が起きたか」



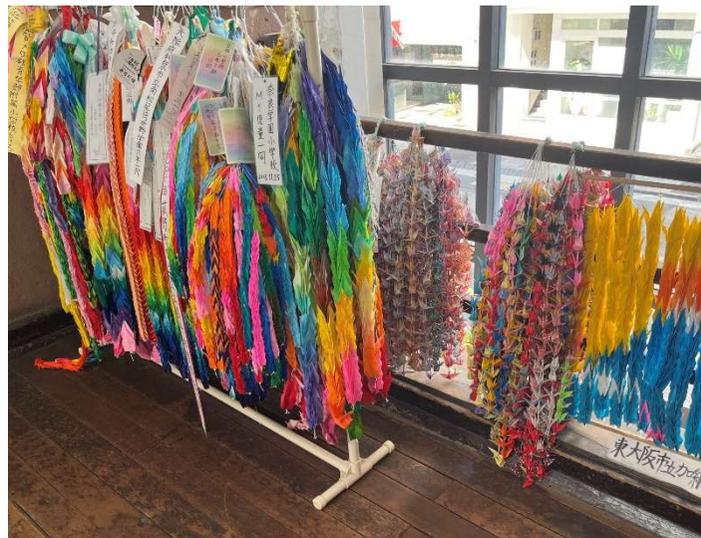
被爆体験証言者の脇舩さんを囲んで

脇舩さん 被爆時の状況

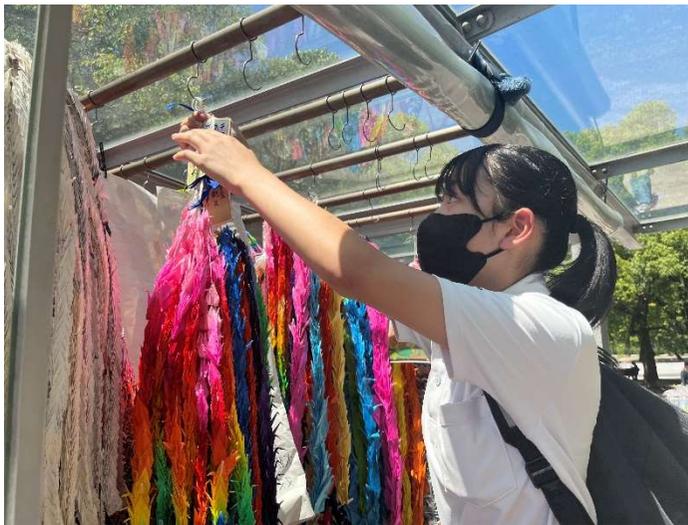
3歳の時、母の実家がある安芸高田市から呉市の自宅へ車で戻る途中、原爆投下により車が止まり、母に背負われ、線路沿いに広島市内へ入った。



○袋町小学校平和資料館の見学



○広島平和記念公園で千羽鶴の献納



○広島平和記念資料館の見学



○おりづるタワーの見学

平和への祈りを込めて鶴を折り、
おりづるの壁へ投入しました。

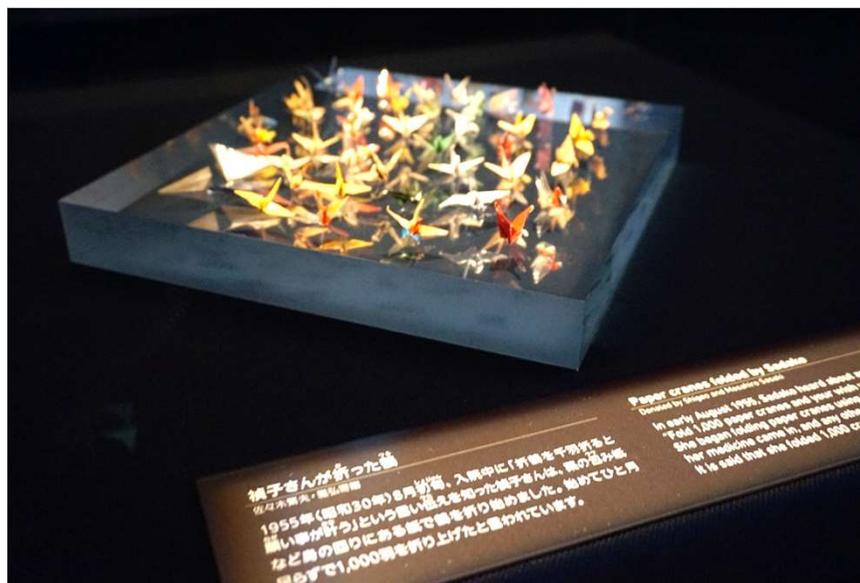


○平和体験学習に参加して・・・

参加した10人の生徒には、平和体験学習終了後、参加して思ったこと、感じたことを作文にさせていただきました。

生徒たちは各学校でもそれぞれ感想を発表していただいています。

作文を全校生徒の前で発表したり、パワーポイントを使用して2日間の様子を紹介したりと伝え方は様々ですが、平和のバトンを次の世代へしっかりと繋いでいます。





鈴木 琉生さん 渡邊 修多さん

七宝中学校 鈴木 琉生

原爆が投下されてから七十九年経った今、僕は初めて広島を訪れました。近代化された街並みとは対照的に、資料館で見た被爆者の遺品や惨状を示す写真はあまりにも悲惨で恐ろしく、言葉を失いました。また、被爆者の高齢化により「広島原爆」を伝えるのが難しくなっていることも知りました。世界で唯一の被爆国である日本。戦争のない平和な未来を実現するために、若い世代である僕たちが原爆の恐ろしさを伝えること。それが大切な使命だと今回の体験で気づかされました。

七宝中学校 渡邊 修多

僕は被爆者の方に伝えていただいた、被爆による後遺症の悲惨な症状に胸が締めつけられました。その方によると後遺症によってよく微熱が出たり、脈が遅かったりなどして、何十年も日常生活に苦労したそうです。このような悲惨な被害を二度と繰り返さぬよう、これからの社会を担っていく私たちが平和な世界を実現させなければならぬと強く確信しました。その第一歩として、まずは多くの人へ今回学んだことを伝えていきます。

七宝北中学校 小川 実莉

原爆が落ちた日、広島は空は赤く染まり、黒い雨が降りました。この日、十四万人が亡くなり、その内七万人は今も名前が分からないままです。被爆により働きたくても働けない、遊びたくても遊べない人がいました。資料館には三輪車や袖を通すことが一度もなかった着物がありました。当たり前前の日常が一瞬で失われる恐怖と悲しさが胸が痛くなりました。私はこの体験を通して私たち若い世代が原爆について正しく知り、核兵器廃絶を訴え続けていくことが大切だと思いました。

七宝北中学校 戸谷 桜大

原爆の脅威は、まだ終わっていない。僕は広島で過ごした二日間で改めてそう感じました。被爆者の方からのお話を聞き、当時あった被爆者の人々への差別や、原爆小頭症という胎児への被害も深刻であったと知りました。当たり前前だと思い、失われるなど思ってもいない世界は決して当たり前前ではなく、その脅威は刻一刻と迫っていることを再認識しました。「地球最後の核兵器が解体された」というニュースを実現させる義務が、僕ら若い世代にあると思いました。



小川 実莉さん

戸谷 桜大さん



山口 恋音さん

小鹿 日楓さん

美和中学校 小鹿 日楓

七十九年前の八月六日午前八時十五分、原子爆弾が広島に投下されました。平和体験学習以前、この一文はただの歴史の一部に過ぎませんでした。しかし、学習を通して目にした写真や遺品、そして被爆者の魂の叫びが心に深く刻まれ、今ではその一文を読むたびに胸が締めつけられるような思いがします。

戦争の残酷さを伝えることが難しくなっている今、私たち一人ひとりが平和のバトンを次の世代に繋いでいくことが重要だと感じました。

美和中学校 山口 恋音

私は平和体験学習を通して、戦争の悲惨さや平和の大切さを学ぶことが出来ました。テレビなどでしか聞かない「戦争」という言葉は、被爆者の方の話・資料館の見学で想像することも難しいような信じられない出来事だと分かりました。そして、二度と起きてはならないことだと強く感じました。

こういった貴重な機会ですべて学んできたことを、多くの人や次の世代へと伝えていきたいです。

甚目寺中学校 伊藤 瑠花

私は、今回の平和体験学習で当時三歳だった被爆者の話を聞きました。破壊された建物やひどいけがを知り、原子爆弾の威力を痛感しました。原子爆弾が投下された後も長い間苦しみ続け、毎日必死に生活していた姿にとっても胸が苦しくなりました。被爆者の方の幼い頃の記憶が無いのは平和だったことの証。という言葉に自分の幸せさに気づき、平和な世界を繋ぐ努力をしたいと思いました。

甚目寺中学校 加藤 風海

平和体験学習をする前までは、原爆について知らなかったんだなと思いました。写真を見れば、あたり一面なにもなく、ほとんどの人が焼けこげていました。他にも遺言や日記などを見ていると、苦しい中みんなが必死に生きていました。被爆者のお話を聞いても、苦しい中でも必死に生きて、今は、楽しく生きていました。前向きに生きるのは大切だと思うのと、こんなことは二度と起きてはいけないなと思いました。



加藤 風海さん

伊藤 瑠花さん



大橋 慶治朗さん 吉川 桜羽さん

甚目寺南中学校 大橋 慶治朗

僕は広島平和体験学習を通して、戦争の悲惨さ、恐ろしさを学びました。被爆者の方の話聞いて、けがや死者の人数、当時の広島の様子が想像でき、今では感じるこのできない程の辛さ、怖さがありました。そのような想いをこれからは誰にもさせないために、戦争は絶対に起こしてはいけないと感じました。そして、被爆者の苦しみや想いを色々な人が知るために僕たちが語り継いでいくことが大切だと思います。

甚目寺南中学校 吉川 桜羽

今、世界では平和を脅かす戦争や紛争が後をたちません。それにより、毎日尊い命が失われています。私たちはその状況を画面越しに眺めているだけで良いのでしょうか。世界があと一步道を踏み外せば私たちの望む平和はありません。それなのに、まるで他人事のように思うのは違うのではないのでしょうか。世界に恒久の平和を実現させるために、日本国民の一人として何か行動を起こさなければならないと私は思いました。広島で感じたことを多くの人に伝えていきたいです。

令和6年度あま市平和体験学習派遣事業参加者



七宝中学校
七宝北中学校
美和中学校
甚目寺中学校
甚目寺南中学校

鈴木 琉生
小川 実莉
小鹿 日楓
伊藤 瑠花
大橋 慶治朗

渡邊 修多
戸谷 桜大
山口 恋音
加藤 風海
吉川 桜羽

引率教諭
美和中学校養護教諭
甚目寺南中学校教諭
事務局
あま市人事秘書課

平野 瑞貴
梅村 司

伏見 友梨香